



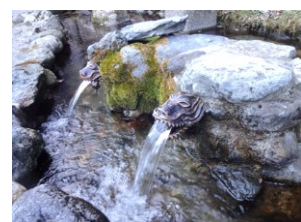
ジオだより



三陸ジオパーク推進協議会



久慈渓流の「鏡岩」は、久慈市内方面に向かう尻跳トンネルの手前からよく見える



「不老泉」小久慈焼の陶器でできた龍の口から水が吹きだしている



約5キロ上流の「大滝」は、チャートでできている

地域に伝わる話とジオの見どころ

三陸ジオパーク認定ガイド 金久由美子さん

「昔々あるところに・・・」
地域に伝わる昔話や伝説には、実は「ジオ」と関わりのあることが多いのです。
久慈渓流の鏡岩の近くにある「不老泉」は飲むと不老長寿がかなうと言われ、その水を口から出している龍は「大滝の主」というお話に出てくるモデルとなっているそうです。



金久由美子ガイド

久慈渓流は太古の海の堆積物からできた付加体という大地です。鏡岩周辺の岩はサンゴ礁からできた石灰岩。水に侵食されやすいため鏡のような滑らかな岩肌ができ、近くに泉が湧き出します。一方、少し離れた場所にある「大滝」の岩は硬い殻をもつ微生物の死骸からできたチャート。硬く水に侵食されにくいので大きな岩がゴツゴツとそのまま残ります。そして、まるでうごめく龍のように見えるのは海洋プレートが大陸に押し付けられてできた「チャートの褶曲」。まさに恐ろしい龍の伝説が生まれそうな場所です。

ちなみに、現在の「大滝」は、(物語の中では旅のお坊さんのおかげ(?)で)川沿いを並行する国道281号線で安全に通行できる観光名所となっています。岩石の種類や特徴が様々な景観を作り出し、それを見た人たちが様々な物語を創造してきたのではと思います。他にも、埋蔵金伝説が伝わる久慈城周辺には白亜紀のマグマからできた鉱物資源があり、義経北行伝説の伝わる侍石には花こう岩の上に人の足跡や馬の蹄の形をした暗色包有物がたくさん残っている等々、ジオの視点から紐解いていくと面白そうな昔話や伝説がいろいろあります。皆さんの地域でもそんなお話が隠れていると思いますので、「ジオ」でつながるかもという目線で地域に伝わる話を探してみませんか？

《東京学芸大学地質古生物学研究室の三陸地質巡検に同行》

10月8日(水)から11日(土)にかけて東京学芸大学地質古生物学研究室(高橋修教授と学生4名)による岩手県内での地質巡検があり、9・10日の三陸地域(大船渡市及び陸前高田市)で行われた巡検に同行してきました。

大船渡市立博物館で古澤学芸員の解説により展示パネルや岩石・化石の展示物を見学し、現地の地質などについて学習した後、陸前高田市矢作町へ移動し、実際に三葉虫やコケムシ(フェネステラ)、腕足動物等の化石採取をしました。翌日は大船渡市日頃市町上板用で古生代シルル紀とデボン紀の地層境界露頭を観察後、同大森の化石産地で同種の化石採取をしました。両市は南部北上帯に属し、日本でも最古の地層が見られる地域の一つとして、また上記の各種化石の豊富な産地としてもよく知られています。

今回、このような地質学的にたいへん興味深い地域において、専門的な知識を持つ大学教授や博物館の主任学芸員の解説・指導を受けながら地質巡検に参加し、今後のジオパーク関連の活動に携わっていく上で大変有意義な経験を行うことができました。(山田町ジオパーク専門員 里)



矢作町飯森の化石産地(陸前高田市指定文化財)にて



大船渡市日頃市町大森にて

*化石採取は事前に関係機関や土地所有者から許可を得ている

三陸ジオパークフォトロゲイニングin陸前高田を開催！



夢アリーナ正面玄関にて、スタート前恒例の写真撮影

制限時間内にチェックポイントを巡り、指定のアングルで写真を撮って得点をゲットするフォトロゲイニング大会。今年は10月19日、陸前高田市を舞台に開催し、県内外から34チーム・88名のみなさまにご参加いただきました。

今回は、震災遺構や玉山金山に関連したスポットなど、三陸ジオパークにちなんだ場所はもちろん、りんご畑や広田湾の風景など、陸前高田の特色あるスポット34ヶ所をチェックポイントに設定しました。

天気にも恵まれ、ゆったりまちあるきを楽しみながらポイントを巡るチームも、上位を目指して市内を走り回るチームも、それぞれのペースでフォトロゲと秋の陸前高田を満喫していました。



チェックポイントにて、笑顔でポーズ！

抽選でジオグッズなどがもらえるジオフォト賞は、今回も好評でした！



構成市町村長によるジオツアー（南部ブロック）を実施

10月27日に南部ブロックで構成市町村長ジオツアーを実施しました。『みちのくの金と人々の歴史、三陸の大津波の歴史』をテーマに、陸前高田市内のジオサイトや関連施設を巡りました。

<行程>

「旧吉田家住宅主屋」→「陸前高田発酵パークCAMOCY」→「玉乃湯（昼食）」→「玉山金山跡」→「中沢浜貝塚」

ツアーは気仙大工

左官の技により見事に復旧を果たした「旧吉田家住宅主屋」からスタート。「玉山金山跡」で平泉の黄金文化を支えた気仙の金山の歴史について学んだ後、現在は防災公園としても機能している「中沢浜貝塚」を見学しました。

お昼には「玉乃湯」特製の陸前高田巡り膳を堪能。現地の特産品の数々が詰まったジオの恵み満載の御膳に舌鼓を打ちました。

陸前高田の歴史や産金文化、津波の脅威と復興等について学ぶことができ、三陸ジオパークの魅力を存分に体感できるツアーとなりました。



気仙大工左官の匠の技が光る「旧吉田家住宅主屋」には貴重な資料も展示している。
令和8年3月まで無料公開中！



広田湾の牡蠣や米崎りんご、岩姫サーモンなど、陸前高田の食材をふんだんに使った「陸前高田巡り膳」

編集後記： 前号で紹介した洋野町の戸類家漁港～宿戸漁港付近の海岸の風景について、その成り立ちをジオパーク専門員の盛合さんに聞いてみました。洋野町の海岸沿いには、種市層と呼ばれる白亜紀に形成された地層が分布していて、その中には、丸みを帯びた硬い岩である「ノジュール」というものが元々含まれているそうです。そのノジュールが、波風などの影響でその層の中から外れたことでくぼみができ、その部分に丸い岩（礫）や外れたノジュールが収まったことで、独特のふしぎなあの風景が出来上がったようです。

この「ノジュール」の中には化石が入っていることもあるそうで、地質観察会などで活用していきたいですね。 ～と～

三陸ジオパーク推進協議会

〒027-0072

岩手県宮古市五月町1-20

（宮古地区合同庁舎2階）

TEL:0193-64-1230

FAX:0193-64-1234

info@sanriku-geo.com

https://sanriku-geo.com/



Facebookはこちら